

## 式 辞

アルプスの峰々とキャンパスの新緑が、青空に映え、希望に満ちた春になりました。

本日ここに、四十一名の新入生を迎え、ご来賓の皆様や関係各位のご臨席を賜り、入学式を挙行できますことは、長野県南信工科短期大学の大きな喜びでございます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。教職員を代表してお祝い申し上げます。保護者の皆様にも、重ねてお慶びを申し上げます。

先ほど、専門課程の機械システム学科十九名、電気システム学科十九名、短期課程の機械科三名の入学を許可いたしました。南信工科短期大学校へのご入学を、心からお祝い申し上げまするとともに、教職員一同、大いに歓迎いたします。

この四年間余りは、新型コロナウイルス感染症禍で、勉学ばかりでなく、ご家族ともども日常生活においても、大変不自由な時期を過ごされてきたことと拝察いたします。

本校の授業も多くの制約を受けました。本日の入学式も、ウイルスの感染拡大を防ぐために、この様に規模をいくらか小さく抑えざるを得ませんでした。ご理解のほどをよろしくお願い申し上げます。

長野県南信工科短期大学校は、地域の皆様のご支援をいただき、大きな期待の下に、平成28年4月に開校いたしました。本校設置の目的は、将来の「ものづくり産業」を担う「地域中核人材」の育成です。本校では、急速に進展する技術革新（イノベーション）にも柔軟に対応できる専門知識と技術・技能を兼ね備え、地域のリーダーとして積極的に活躍する実践技術者「ものづくりのスペシャリスト」を育成しています。

その本校のカリキュラムの特色は、「少人数教育」と「実験・実習」です。少人数教育で、基礎理論の習得から先端機器を活用した実験・実習を通じて、専門知識と技術・技能を学びます。学生の皆さんの確かな技術者としての実力は、このカリキュラムをじっくりこなしてゆくことにより徐々に蓄えられてゆきます。

最初に、専門課程に入学する皆さん。皆さんは、開校8年目に入学した第8期生です。

本校では2年間、月曜の1時限目から金曜の4時限目までびっしりと必修授業が詰まっています。入学した1年次には、「一般教育科目」から始まり、「基礎講義」と「基礎実技」を受講します。後期からは、両学科をまたがってグループを構成し、一緒に課題を研究・解決する「総合課題」があります。

2年次には「専攻講義」があり、より深い専門知識を学び、その知識を基に「専攻実技」では、実験・実習を受講します。最後に、二年間の集大成として「卒業研究」に取り掛かります。これらの充実した授業を通して、「ものづくりのスペシャリスト」としての確かな実践力を磨いてください。

次に短期課程入学の皆さん、皆さんは、開校8年目の前期に入学した、第15期生です。皆さんは機械科で、伝統的な金属加工器具から最新のデジタル機器を操作する技術・技能を習得します。皆さんは、「普通学科」、「基礎学科」と「専攻学科」の座学の授業で得た機械工学の知識と、「基礎実技」および「専攻実技」の実習授業で、より高度な技術と技能を身につけます。

半年間で、即戦力の「ものづくりのスペシャリスト」としてのさらなるスキルアップを目指してください。短い期間ですがそれだけ密度の濃い時間を過ごしてください。

さて、今年の式辞では職人気質（かたぎ）にまつわるエピソードとして「五角スッポン」を紹介しました。五角スッポンは金属加工の技能についての逸話でした。

今日は、電気電子工学分野の「鉱石ラジオ」について紹介します。私達の年代で理科に関心のある少年時代を送った方は「模型とラジオ」という科学雑誌を覚えておられる方も多いと思います。

模型の分野は蒸気機関車などの鉄道模型が主で、HOとかOケーjなどがありました。一方、ラジオの方は、当時はまだトランジスターがなく、もっぱら大きな箱形の真空管のラジオでした。そんな時代に、「鉱石ラジオ」なる「魔法の玉手箱」が登場しました。私の場合には、「模型とラジオ」の付録キットを組み立てたように記憶しています。

大きさは手に載せられるほど小さくてたいへん軽いものでした。一番驚いたのは全く電源がいらないことです。動作原理については当時は理解できなかったのですが、天然の黄鉄鉱か磁鉄鉱とゆう鉱石に金属の針を接触させて出現する整流作用を利用したもののようでした。

小さな肌色のイヤホンを入れて家の周囲をあちらこちら回って電波の受信できる場所を探しました。イヤホンから小さいけれど明瞭な話し声が聞こえてきた感動は衝撃的でした。電柱の支柱を支える金属製のワイヤーロープにラジオから伸びているアンテナケーブルを絡ませると、受信状態が改善されることを見つけて大変喜んだことを今でも覚えています。

その後、ゲルマニウムの「ダイオード」、続いてシリコンの「トランジスター」が発明・普及されて、鉱石ラジオの姿は見られなくなってゆきました。けれども、私になかでは、この鉱石ラジオこそが現在の電気電子工学の基礎となる半導体工学発展のブレイクスルーではなかったかと考えています。

現在のようなイノベーション（技術革新）の激しい時代では、皆さんは、明日にでも機械工学や電気電子工学分野のブレイクスルーに立ち会えるかもしれません。

専門的な基礎知識と先端技術の知識だけでなく、実践的な技術・技能を身に付けていればこそ、そのような新しい状況にも対応できるものです。

明日の「ものづくり」を担う人材の育成のために理念と目標に基づいて構成された本校のカリキュラムにより、専門分野の知識と技術・技能を確実に身に付けてください。これから待ち受けている様々な課題に積極的に挑戦できる力となります。

本校が設置されています上伊那は、諏訪湖から流れ出た天竜川によって形成された河岸段丘が、両側の急峻なアルプスから流れ込む谷川によって分割された、「田切地形」と呼ばれる独特の景観を呈した地域です。この恵まれた地形と豊富な水を利用して明治の養蚕業から始まり、現在の産業を牽引する金属加工や精密機械、電子部品に関する工業が発展してきました。高い技術を持つ企業や研究開発型企業が活発な活動を展開しています。

この自然に恵まれ、文化の薫り高い「上伊那の地」で、ともに学び、科学技術の確かな実力を身に付けた、「ものづくりのスペシャリスト」を目指してください。そして何よりも、本校で「楽しい学生生活」を過ごされることを心より願ひ、私からの式辞といたします。

令和5年 4月10日

長野県南信工科短期大学校長

武田 三男